



後金見学の志 二編  
 砂原 仁

遠 13  
 2475  
 69





13  
2475  
69



謙人君見守を心下編中女四

茶儀

一 兼秀に心胡付とゆつる

兼 横山右馬介和向陣とゆつる

一 中氏浪若若大治合戦のころ

兼 小西玄吉和向陣とゆつる



源人君見可志下編中其四

海秀に心胡付をゆ

美横心者ふ介胡付海より其美

相捕浪常胡付兄志出付の下知り

よりのまき人拙く胡比志中と其

んて勇いこころんて池坊胡よ

まや胡比志ふおまきり一六胡付



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a date '日' and several lines of illegible characters.





ふゆの海へいしよらり一別ひ来  
海へしや海秀しよのお持法第  
胡阿へくれは辺のふかりよ忠と序  
何と忘らるる事と海せん  
と欲をれしよしと時をいよひする  
の時ハ斗ふ次けれは来り胡阿  
言と別りらり一ち力なづ次母ら  
忠洗と洗まり一誠場なる事んで

私をいしよ一海へいしよらり  
よ一誠をいしよけち孝な海へん  
欲をいしよのふも恨しよとひる  
まうまのいしよつと月捨なり  
まうの目しよる秀つとくお條  
の女族へいしよのいしよは  
るものいしよら父弟何れと  
おいぬひ改つとよらあはちあは



コトが一族天下の爲にその回飛と  
るやさんと欲しは合衆なるが  
るあり汝心なり又を流るる道  
よ道守くくしたるの親と  
りたひらぬは事ありて神と神と  
んとのその父の回飛とやぬ  
るは神なるや神とやなり  
るんよその回飛とやぬ

まへに親子と一神父のつら  
るんは神とやその人  
とゆけりともありといふ  
ありは神とやその神付  
とありたり海に合はひは魚  
のその名の神とやその  
と神とやその神と  
が神付ぬるは力の神とやぬ



海ありが浦の子縁よりあるは  
縁も縁の縁心はくはひひ  
く思ひつらむとやありて  
うらむと死も入るもあはれ  
一とて思ひつらむとやあり  
しむらひつらむとやあり  
もはよむとやあり  
うらむと死も入るもあはれ

何れも縁の縁心はくはひひ  
く思ひつらむとやありて  
うらむと死も入るもあはれ  
一とて思ひつらむとやあり  
しむらひつらむとやあり  
もはよむとやあり  
うらむと死も入るもあはれ







常時大いねに悦び申と保ち候も  
せんぞと敬と進討入と伏し時  
古尾古坂のものをあつて  
叔父の跡つひにさるるついで  
ちうぐいさむしむるあかしの夜  
いとちや曉に及びし大將よ  
し流る下知と傳へしまの  
人との志と保つしあつて

さましとつて前漢まで選り  
とと波多の生流帝経船満回  
帝の御座候し一か余人を  
りけ大町大治并町の色と  
ひねんとしちや古尾古坂  
つねにしまひひまあつて  
て目くら瀬田波多のホ一  
かゝる次敷くは故きを



よきことごとく  
ついでに  
横山右馬助  
約あり  
合戦  
の晩  
大

一  
多  
腰  
ら  
義  
美  
そ  
堀  
堀



九年一平一治年一是治年一在  
お井一平一治年一阪東一治年一は  
家一治一として一その一治一の子一治一  
を一治一として一その一治一の子一治一  
余一人加一治一として一その一治一の子一治一  
よ一治一として一その一治一の子一治一  
物一治一として一その一治一の子一治一  
よ一治一として一その一治一の子一治一

の合一治一として一その一治一の子一治一  
り一治一として一その一治一の子一治一  
る一治一として一その一治一の子一治一  
是一治一として一その一治一の子一治一  
ち一治一として一その一治一の子一治一  
二一治一として一その一治一の子一治一  
と一治一として一その一治一の子一治一  
一治一として一その一治一の子一治一



西和同く強くして西邊人亦  
對り終り候しと胡比去るなり  
多し討死せしものあり  
懐もあつてむかひて還るる  
浪をいりて海付少し  
るる心地りて舟と丸車にお  
家も向ひては滅候と  
せしものあり候しと

る人満將の命に  
りものしと終りて海に  
本軍あつては滅候と  
敵はあつては滅候と  
登んまありて横に  
ら多し候しと今の海に  
加りて終りては滅候と  
海に











迎色まへいろの者ものはけしや  
許こころすまゝあり 和回わくわくた交まじり  
と信しん尉ゑい様さまの者ものは  
とわしと君きみと対たい面めんと  
しよも列りゆうののは  
迎むかへてはあり  
討うたえりまじも  
大膳だいぜんさま

お掬く守し

五月三日申判

二番又

新あらたののは  
中な知ちりありし  
りののは  
とらんや 相あい  
浦うら堂どうの  
判はんり















てりー火おのちりりーせんぬ  
りりら出付らるゑ死の敵も  
こまじまじのまじりらひれ  
まじらるゑ敵軍は出付をせん  
うがしーらりーり中とて  
味方の敵軍と海にた名の敵  
ゆよ命に敵をとりたつと  
矢よ射らるるまじりらあり

らりーらりーらりーらりーらりー  
つまじ敵殺して海にたつと  
友ありらりーらりーらりー  
をと力らるゑ敵軍は加らるゑ  
あつららるゑ古戦はたつと  
敵の敵はたつとまじりらりー  
をと力らるゑ敵軍は加らるゑ  
友ありらりーらりーらりー  
つまじ敵殺して海にたつと  
らりーらりーらりーらりーらりー











うおらうあつらうら人の純せう  
るからんまねたんせう  
しうらうしうせうとせう  
るかりーんるり純くんら  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
帝まへんひまがらうま相々  
久々あふ心とるも味子  
そのあふんあふんあふん

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
あけつと海一海一の  
を塗まのしとらりから  
思ふ思ふに心乃おまら  
あつと割一波河を今  
とんまのあつとあつと  
惟久とあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつと



しと 沙汰いふかばまらふれし  
はひは 珍味しとらうしとらうが 後  
軍は 諸将忠告のたま  
義向は 是と變大ひかいらうお 守  
ゆと 一 惟久と海をへしと  
つしと 實の言とらうかばとらうの  
とらうと 一 毒討をいはとらう  
ゆと 一 此のゆとらうとらうとらうとらう

は 義 控 一 罷 一 あり 惟 久  
林 海 一 あり 諸 將 忠 告  
明 一 あり 波 多 一 あり 年 一 あり  
一 あり 射 一 あり 一 あり 一 あり  
一 あり 乱 軍 一 あり 一 あり 惟 久 一 あり  
一 あり 年 一 あり 射 一 あり 一 あり  
好 一 あり 波 一 あり 一 あり 射 一 あり  
一 あり 一 あり 射 一 あり







と愛を賜ふと物も希らるる今更  
惟久身命ととりお防殿  
勞しぬる思ふ人々物も重つひ  
致せしきも天國のありと  
阿ふらりぬらひらるるも  
よ古の澤忠勇とぬらるる  
ひ掃ふと同く力と人々せせり  
をりしと出出付兵え来つる

切らるるものも由り防殿  
致しぬるも由り出出付わら  
と之所中りし海軍切新  
請殿とんと再ひ防殿とり  
希らるる人々学義信ち希らる  
希惟久思防殿の實心推  
刑級思朝宗未町の太師  
し申すは是利義氏あり







討るるやが 兵のつら 故を  
神を人 敵隊を のび入る  
重長の子 如く 捕へ 殺  
左切を つかん 名部 あり  
二重入 して 敵隊 あり  
礼軍の中 敵の 兵を  
生捕り けし の 甲冑を  
ぬぐも 自分 是と 名部 和国が

そよ 出ら ちよ 一の 道より  
まき け 神 敵 小 泥を のつ あり  
人 敵 隊 兵 入 向 あり  
大 将 兵 如 敵 隊 小 腰 あり  
死 とも 敵 隊 兵 又 あり  
海 あり あり あり あり  
い あり あり あり あり  
備 あり あり あり あり



次女を國に申すは是とて  
あるは次由のあらんは明せよ  
お女は下知しはまた吉布相  
いふはこれなりと國をけり  
ちか<sup>ちか</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>いたしては女を  
うけりかき女をけり  
女は吉布相なりつとて  
女は物なりは物なりぬ

いさぬ又吉布相打ち力  
り能入り候りは  
り又吉布相は強力なり  
物<sup>もの</sup>は播<sup>は</sup>合<sup>あ</sup>はるる  
わし及びは終りは國と  
なり

海客は是を志す下編中其四



